

副会長からのメッセージ

“今こそ、ものづくりの基盤の再構築を”



電気通信大学 教授
鈴木 和幸

世界同時不況の深刻度が深まる中、ものづくりの基盤の再構築へ向けて述べる。

90年代のバブル経済崩壊後のわが国の品質・安全に関するトラブル増加を、今回の不況で繰り返してはならない。バブル崩壊後の利益偏重・リストラ・教育投資削減、そして、急激な高度技術の進展の下、技術の伝承が十分に為されてきたとは言いがたい。また、これまで新製品開発に追われ、自分の責務の遂行に精一杯で、各自の英知・ベストプラクティスがややもすると暗黙知のままでありがちであった。就業時間短縮を機に、これらの暗黙知を形式知とし、さらに組織知化を図られたい。例えば、定年となる団塊の世代の先輩諸氏よりの技術伝承を徹底することなど、先輩よりの「一日講師」「一カ月講師」などの形で技術ならびに「人間力」を学ぶ。オバマ大統領は、すべての米国人に一年以上のより高度な教育・職業訓練を受けるよう求めている(日経2/25)。今こそわれわれもそのときである。

技術の高度化、複雑化に伴い、機械・制御・電子・ソフトを統合化する上位システム創りはもちろんのこと、利益優先ではなく、品質・安全性を基軸としたものづくりの基盤の再構築が望まれる。そのためにはトップの強力なリーダーシップと全従業員の積極的な参画が必要である。

組織には5つの共有すべきものが必要と考える；①共通の理解、②共通の目標、③共通の技術基盤、④共通の言葉、⑤共通のアプローチである。この不況の中、①ものづくりの重要性を皆が理解し、そして、あらゆる行為や選択はすべて何らかの“善”を希求しなければならない(ニコマコス倫理学)、②利益偏重ではなく、人材育成と長期的視点より顧客・

従業員・社会環境の三つの満足を考え、③個人技術ではなく長年の英知の結晶である技術・知識・経験を組織知とし、④プロセス重視・自工程完結・源流管理などの言葉を共通の行動指針とし、⑤PDCAの管理のサイクルを正しく回し、事実に基づく管理などの共通のアプローチを実践すること。これらを共有し、強力なリーダーシップの下、組織構成員全員がこの不況に立ち向かわねばならない。今はこれらの共有化を押し進める好機である。

ものづくりの基盤構築にあたって管理の視点からは、Ⅰ基準、Ⅱプロセス標準、Ⅲプロセス標準の遵守、の三点が重要である。Ⅰはユーザーニーズ、使われ方、環境条件、環境影響などの要求品質を十分に反映した設計基準・安全基準・評価基準などを確立すること、ⅡはⅠを達成するための仕組み・方法・手順の確立、Ⅲはそれらの遵守である。この遵守のためには教育・トレーニング・遵守への動機づけが必要となる。

おわりに、ユーザー、社会行政の役割をハザードの視点から考える。ハザードとは危険・損害をもたらす潜在的な状況・要因を言う。ローンを支払う能力がないことを知りながら住宅を買うこと、環境に悪いことを知りながら石油に依然し続けること、短期的なコスト削減が長期的な繁栄より重視されている状態、等々。これらのハザードは存在しうるものであるが、これを着実に洞察しメーカー・ユーザー・社会行政の共通の下、乗り越えなければならない。

この不況の中、より新しい社会の期待に応えるために、今までできなかった課題に目を向け、共有すべき項目を洗い直し、ものづくりの基盤を再構築することに目を向けられたい。